

# 秀歌三十首十今年の収穫

清水あかね

生き死にが単純形でありにし日いきいきと吾  
 老いたアメーバー 十月号・青木 信  
 もうわたしのちいさな子どもは遠ざかりおか  
 あさーんと遠くから呼ぶ 駒田 晶子  
 尾の先の骨まで並べて下されば紛ふことなき  
 猫でありにき 福岡 享子  
 新しい人に降りくる蟬の声金のシャワーのカ  
 ナカナの声 十一月号・佐佐木幸綱  
 ピーコツク色の財布を貰ひたり次に逢ふ日の  
 約束の色 原 ナオ  
 五嶋龍は冷酷かもしれぬ妄想の繁みゆアドニ  
 スモルフオ飛び立つ 奥山かほる  
 父おらぬ二度目の夏に慣れずおりほおずき一  
 本仏間に飾る 倉石 理恵  
 夕風の中を進めば次々と我が背を閉ちてゆく  
 薄原 十二月号・山口 明子

ひとりひとりひとりひとり改札口から羽化す  
 るごとく我ら湧き出る 菅野 彰一  
 かくながく火織し蝶のまつはれば魂と思つて  
 了ふではないか 一月号・峰尾 碧  
 液体に名前をつけてはいけないねアメとかウ  
 ミとかカナシミだとか 星野さいくる  
 棕櫚帯新しくして夏がゆき掃いてもはいても  
 介護はつづく 井寺 容子  
 ああいいね日本語が話せるつていいね夕べ晴  
 れ晴れと息子言ひたり 二月号・大口 玲子  
 臘なるいのちに命つき刺してアウシュビッツ  
 に降る雪を聴く 奥田 亡羊  
 腐らない身体が欲しい仏像のように腐らない  
 心が欲しい 桜 望子  
 カラフルな機関銃よりカラフルな弾丸散りて  
 色の海なる 村田磨理子

アクセルを踏み込む足は草履ばき 南の男は  
 ほどよく捲る 梅原ひろみ  
 襖絵の虎と走りてあそびぬ寅どしうまれの  
 いまはなき吾子 三月号・経塚 朋子  
 君はまたあくびのやうに旅に出て地蔵のやう  
 に帰り来るなり 岸並千珠子  
 床の間に丹後兜がよく似合ふ男の中の男茶を  
 練る 佐世 弘重  
 ずる休みしたくてデイに電話する風邪です今  
 日はお休みします 四月号・木島 泉  
 寒き夜もオナカシロコに家は無しその身ひと  
 つを丸めて眠る 五月号・藤島 秀憲  
 オスカルもマリー・サンソンも長く濃き睫毛  
 にまみれ虚構を生きき 小川真理子  
 「二月の年金出たら髪を切る」静かに言えり  
 粉雪の降る夜 鎌田 由紀